

あの頃の私が、今の私を想像できただろうか。そう思えるくらいに、今の私の学校生活はとても充実しています。それは辛いことがあったとき、そばで支えてくれる親友と、物事を前向きに考える習慣ができたからです。

以前の私は一人でいることがとても怖くて、友達を作ろうと必死でした。人見知りで、人と接することが苦手な私は、たくさんの友達がいる子を見ると、とてもうらやましくて、友達が少ない自分を嫌悪していました。いつも相談に乗ってくれる友達はいましたが、本当の自分を出したとたん裏切られるのではないかと不安になり、どこか距離をおいてしまっていました。また、友達の数を増やそうと、上辺だけの付き合いをする友達が増えていったのです。当然、心を許しあえる関係は築けませんでした。

そんなとき、祖母が私に「ポジティブに考えてごらん。一人でもあなたのことを理解してくれる子がいるのならそれでいいじゃない。自分の信じた友達に心を許していけばいいんだよ。」と話してくれました。

そんなポジティブ思考な祖母ですが、二年前に膵臓がんが発覚してから今もなお、そのがんと懸命に闘っています。祖母は十時間にも及ぶ大がかりな手術に耐え、抗がん剤治療で髪の毛は抜け、食欲もなく痩せてしまい、見た目もすっかり変わってしまいました。しかし、明るくて優しい笑顔だけは以前とまったく変わりません。祖母はがんだと宣告されたときも、抗がん剤治療で辛いときも、その姿を見て心配している私たち家族に冗談などを言って笑わせてくれるのです。本当はとても辛くて、苦しいはずなのに。それを見せずにいつも明るく振る舞い、周りの人々を元気にしてくれる祖母は、強くて優しくとてもかっこいい人です。

不思議なことに、そんな祖母の周りは、主治医の先生や看護師さん、行きつけのパーマ屋さんなど、数え切れないくらい優しい人であふれています。それは偶然ではなくて、祖母のもつポジティブな力が周りの人にも影響しているのだと思うのです。

「ポジティブ」それは生きていく中で経験する、辛いことや悲しいことを乗り越えていくための考え方であり、私たち人間は、きつとその考え方に救われているのだと思えます。祖母の言葉をきっかけに、私はポジティブになれたのです。そして、自分の殻を破っていくことができました。祖母の言葉がなかったら、今頃は本当に大切な友達の存在に気づけていなかったかもしれません。ポジティブに考えることで、私は自分に自信をもてるようになりました。

みなさんは嫌なことや辛いことがあったとき、前向きに捉えることができますか。ポジティブな人も心のどこかではネガティブに捉えてしまうときもあるのではありませんか。でも、それは人間だから仕方がないことなのではないでしょうか。私はネガティブに考えることがまったく必要のないことだとは思っていません。

以前の私は、あらゆるものごとに対してネガティブに捉えがちでした。友達とけんかをすれば「私がかついことを言ってしまったからだ。」と自分を責め、部活でミスをすれば「自分はもう、誰からも必要とされないんじゃないか。」と失望していました。過去の私は、そんな考え方の自分が嫌いでした。しかし、今思い返してみると、そうやってネガティブに捉えることで、自分の弱い部分や過ちに気づき、物事に慎重に向き合うことができていたように思います。

だから私は、自分の中にあるネガティブという考え方を消し去るのではなく、ポジティブとネガティブのそれぞれのよいところを自分の力にして、何事にも怯まずに立ち向かっていける自分でありたいと思います。

前を向いて歩いていくことを教えてくれた祖母に感謝の気持ちでいっぱいです。「おばあちゃん、ありがとう。おばあちゃんのおかげで強くなれたよ。」

私はこれからも前を向いて歩んでいきます。その先に待つ未来が明るいことを信じて。